

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	薬事衛生課 柳 俊徳	電話番号	0852-22-5257
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	食品衛生対策推進事業		
目的	(1) 対象	食品関係施設を利用する人、食品を購入する人	
	(2) 意図	食品等に起因する健康被害を防止する	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 食品衛生関係指導・育成事業：衛生管理の向上のため、食品関係業者に対して、講習会の実施や指導・助言を行う。 食品衛生法等による許可・監視・検査・指導：不適食品を排除するため、食品関係業者等に対して、法に基づき許可・監視・検査・指導を行う。 食品衛生に関する啓発・情報発信事業：衛生知識の普及のため、消費者に対して、講習会の実施やTVスポットの配信等を行う。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	食中毒発生件数	目標値	6.0	6.0	6.0	6.0	件
			取組目標値					
	式・定義	食中毒発生件数	実績値	10.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	37,479	44,052
うち一般財源 (千円)	16,924	20,513

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基いた現状)

・平成27年度の食中毒発生件数は10件であり、昨年度の11件より僅かに減少したものの、目標値の7件以下を上回った。内訳は、カンピロバクター2件、ノロウイルス1件、病原性大腸菌1件、腸管出血性大腸菌1件、アニサキス3件及び不明2件であった。

・食中毒発生件数はH26年の11件から10件、うち広範な被害に繋がりがやすい食品営業施設等での発生は7件から6件に、いずれも減少した。また、これまで対策の徹底を指導してきたノロウイルスやカンピロバクター食中毒はH26の4件から3件に減少している。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

・平成27年度の食中毒件数は10件で、昨年度の10件と比較して僅かに減少した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
- カンピロバクターをはじめとする細菌類とノロウイルスによる食中毒が依然として多い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 食中毒原因微生物(細菌・ウイルス)の多くは、食品の製造及び加工工程における二次汚染が主な原因となる。
- ③原因を解消するための「課題」
- 加熱調理食品の加熱温度管理、調理従事者の健康管理、調理従事者等に起因する食品の二次汚染の防止等、カンピロバクター及びノロウイルス等の食中毒の発生防止対策の徹底が必要。
 - 食品事業者に対して、食中毒や異物混入等の食品衛生を担保するためのHACCP方式による衛生管理手法の導入の推進。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・食品事業者に対して、食中毒や異物混入等の食品衛生を担保するためのHACCP方式による衛生管理手法の導入を推進する。

・食中毒予防対策として、食品取り扱い施設の監視並びに食品事業者の講習会の実施、食中毒注意報・警報の発表などにより県民等に対するカンピロバクターやノロウイルスなどによる食中毒の発生防止について注意喚起を行っており、引き続き、関係者や県民に対して様々な媒体、講習会等を利用し啓発を行っていく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)